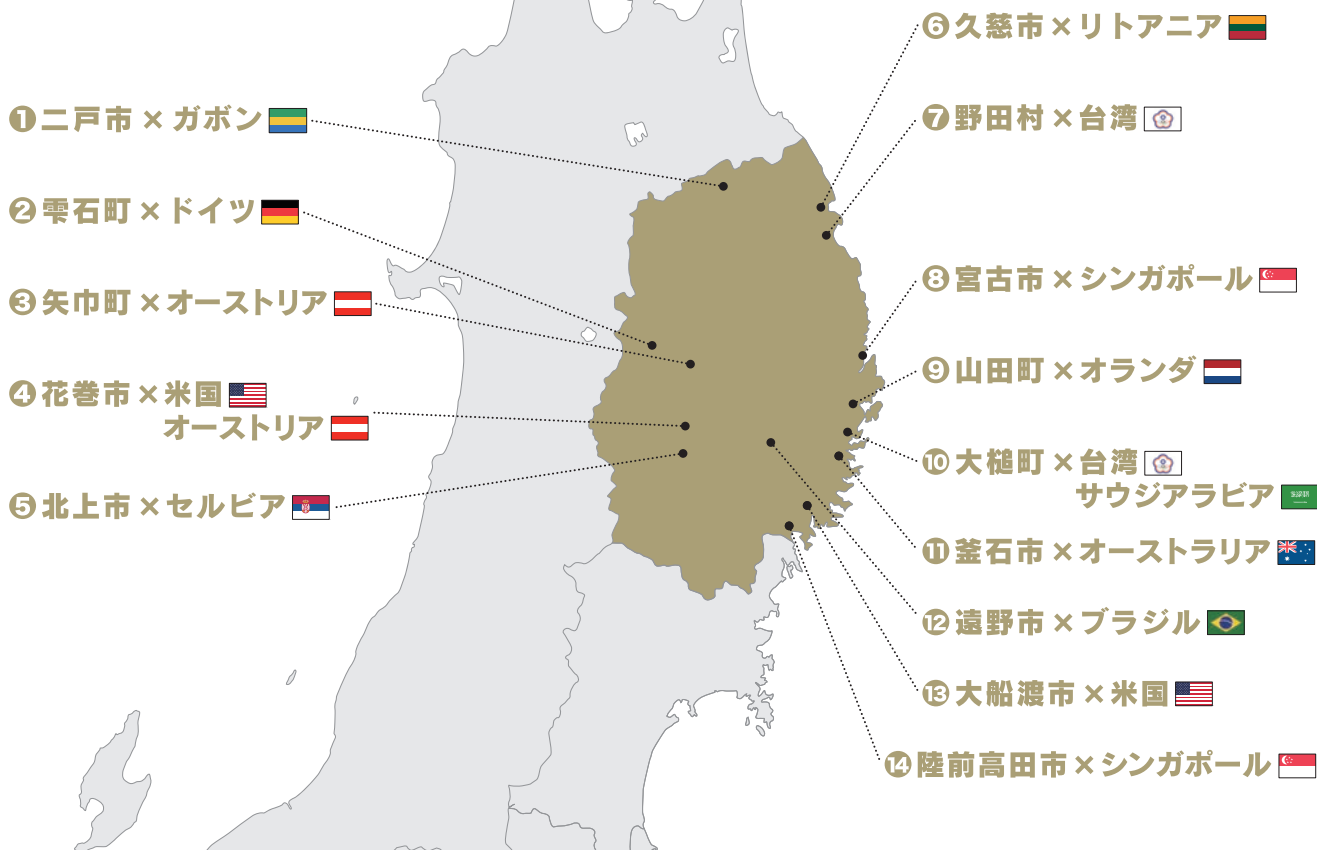


復興ありがとうホストタウン

岩手



① 二戸市 × ガボン



震災後、ガボンから多額の義援金が日本赤十字社にて贈られた。二戸市の被害は比較的軽微だったが、他の被災市町村から多くの方が避難に来ており、義援金が日本赤十字社を通じて被災者・避難者の生活支援に充てられた。

② 雫石町 × ドイツ



友好都市の相互訪問交流で雫石町を訪れたことのある、ドイツのバードピンブフェン市・ネッカーズルム市の学生を中心に、震災直後に募金活動が展開され、集められた善意が雫石町国際交流協会を通じて沿岸被災地に届けられた。

③ 矢巾町 × オーストリア



県立不来方高校音楽部の演奏旅行でお世話になったホストファミリーから募金が届いたほか、現地の小中学校からも約2,000枚のメッセージが寄せられた。本国から日本への義援金も、日本赤十字社を通じて避難者の生活支援に充てられた。

④ 花巻市 × 米国、オーストリア



震災発生直後より、米国のホツスプリングス市及びラットランド市（姉妹都市）、オーストリアのベルンドルフ市（友好都市）から励ましのメッセージが寄せられたほか、現地で募金活動が行われた。市に届いた多額の義援金は、被災者支援に活用された。

⑤ 北上市 × セルビア



震災後、セルビアから多額の義援金が日本に贈られた。寄せられた義援金は、日本赤十字社を通じて、灯油購入や移動交通費の助成などの生活支援に充てられ、被災者・避難者の暮らしに対する不安の軽減につながった。

⑥ 久慈市 × リトアニア



琥珀の産地としての縁から姉妹都市として30年以上交流を続けているリトアニアのクライペダ市から、震災後に多額の寄付金が寄せられたほか、現地の小中学生が復興を願う「千羽鶴キャンペーン」より励ましをいただいた。

⑦ 野田村 × 台湾



台湾佛教慈濟基金会から全被災世帯への義援金をいただいたほか、台北中正ロータリークラブ・台北福齢ロータリークラブから小中学校用の太鼓・管楽器・スポーツ用品など多くの支援を受けた。

⑧ 宮古市 × シンガポール



震災で全壊した宮古運動公園陸上競技場の備品購入費用として、シンガポール赤十字社から寄付金をいただいた。2017年7月の陸上競技場の復旧に合わせた備品購入の際に、役立てられた。

⑨ 山田町 × オランダ



江戸時代にオランダ船が山田湾に着船した縁で本国との交流が続いている。震災後、同国関係企業等から成る「一般社団法人オランダ島」から、放課後児童クラブ「オランダ島ハウス」の寄贈など、多大なる支援を受けている。

⑩ 大槌町 × 台湾、サウジアラビア



台湾からは、災害公営住宅などの建設への支援金をいただいたほか、復興支援コンサートの開催や奨学金制度の創設などの支援をいただいた。サウジアラビアからは、仮設住宅向けにLPガスの一部無償提供をいただいたほか、町役場仮庁舎のエアコン設備も提供いただいた。

⑪ 釜石市 × オーストラリア



震災当時、釜石シーウェイブスRFCに所属していたオーストラリアのラグビー選手が、チームメイトとともにボランティアとして救援物資の集積場で奔走。2015年より海外体験学習事業として現地への中学生派遣も行っている。

⑫ 遠野市 × ブラジル



震災後、ブラジルから多額の義援金が日本へ贈られた。義援金は日本赤十字社を通じ、家電支給や灯油購入などの生活支援に充てられ、被災者・避難者の暮らしに対する不安の軽減につながった。ブラジル岩手県人会からも、岩手県に対し多大なる支援をいただいた。

⑬ 大船渡市 × 米国



震災直後、ロサンゼルス郡・フェアファックス郡消防隊の隊員が、国際救助隊として捜索救助活動などに従事。ボストンのボランティアメンバーも延べ1,500人が約7ヶ月間に渡り、ガレキ撤去等のボランティア活動を行った。

⑭ 陸前高田市 × シンガポール



シンガポール政府とシンガポール赤十字社が創設した基金からの支援を受けて陸前高田市コミュニティホールが建設された。「シンガポールホール」の名称で市民から親しまれ、講演会やコンサートホールなどに広く活用されている。



復興ありがとうホストタウン
WEBサイト



復興ありがとうホストタウン
Instagram

復興ありがとうホストタウン

宮城



① 加美町 × チリ



震災時、南三陸町とチリの友好の証であったモアイ像が流出し、2013年に新たなモアイ像がチリから南三陸町へ贈られた。避難者の受け入れや輸具派遣などを通して南三陸町との交流を続けている加美町が主体となり、チリへの感謝を表す交流を実施している。

④ 石巻市 × チュニジア



1992年から始まった旧桃生町と東北大学チュニジア留学生の交流を契機に親睦を深めてきた。震災時には、在日チュニジア大使館による炊き出しや、同大使館が集めた生活物資の配布など、多大なる支援をいただいた。

⑦ 岩沼市 × 南アフリカ



震災直後、同国の救助隊（NGO「Rescue South Africa (RSA)」）が仙台空港周辺において救助活動を実施したほか、救助隊の一部が避難所となっていた市民会館を訪れ、市長にメッセージ入りのサッカーボールを贈呈した。

② 仙台市 × イタリア



慶長遣欧使節団に始まる歴史的なつながりを礎に、FIFAワールドカップ日韓大会時の合宿受入れなどの関係性が続いていた。震災後、サッカーチャリティイベントの収益金寄付や、子どもたちのサッカー交流遠征受入れ等の支援をいただいた。

⑤ 東松島市 × デンマーク



震災後、駐日デンマーク大使やフレデリック皇太子が来訪され、災害対策本部や保育所、小学校、避難所等を回られた。同国からの寄付金を原資に「デンマーク友好子ども基金」も創設され、物心共に多くの支援をいただいた。

⑧ 亶理町 × イスラエル



イスラエル親善大使が代表を務めるNPO法人セリアの会が、町の保育士を対象に、心に傷を負った子どもたちへの接し方についてのセミナーを実施。同国からは、物資の提供や町民を元気づけるイベントの開催等の支援も受けた。

③ 気仙沼市 × インドネシア



震災後、ユドヨノ大統領（当時）が気仙沼市を訪問し被災者を励まされたほか、200万ドルの多大な寄付をいただいた。その資金は、地震の被害を受けた気仙沼図書館再建費用の一部に活用され、同館内へ児童館エリア「ユドヨノ友好子ども館」が設置された。

⑥ 名取市 × カナダ

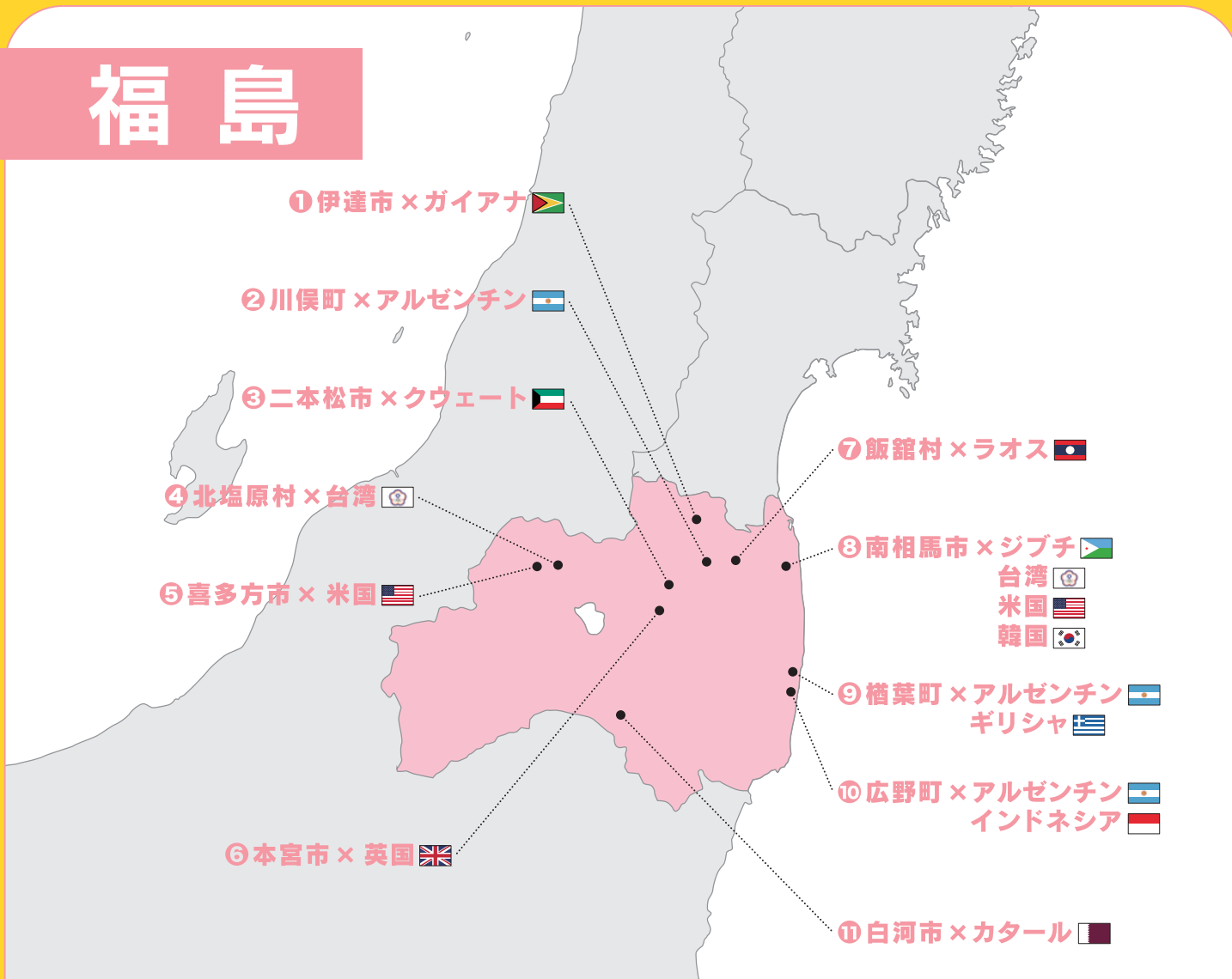


カナダ連邦政府、プリティッシュ・コロンビア州政府、アルバータ州政府、カナダ林産関連企業から、「カナダ東北復興支援プロジェクト」として、同国の木材を使用した施設である図書館と朝市施設の建設・寄贈を受けた。



復興ありがとうホストタウン

福島



① 伊達市 × ガイアナ



震災後、ガイアナから日本赤十字社あてに多額の義援金が贈られた。それを基に、家屋被害や原発事故の影響等により避難した伊達市民に対して生活家電が提供され、生活の早期再建に繋がった。

② 川俣町 × アルゼンチン



川俣町では、アルゼンチンのコスキン市で行われる世界最大規模のフォルクローレ音楽祭にちなんだ音楽祭を開催している縁で、2013年にコスキン市の小学生から励ましの絵画106点をいただいた。同国赤十字社を通じて寄せられた義援金も、町民の生活支援に役立てられた。

③ 二本松市 × クウェート



震災後、クウェートから日本に対し、多額の義援金(無償提供の原油の代金相当)が贈られた。日本赤十字社を介して、一部が二本松市に充てられ、被災した中小企業に対する支援やサテライト校の生徒に対する支援等に活用された。

④ 北塩原村 × 台湾



2011年6月、台湾舞踏家協会が、北塩原村に避難していた浜通り地方の被災者を激励するため来村し、慈善公演を開催。2014年8月には傳練堂綜藝團が来村し、村内の中学校で伝統舞踊を披露するなど、台湾から温かい支援を受けた。

⑤ 喜多方市 × 米国



米国ウィルソンビル市とは30年の長きにわたり姉妹都市交流を行っている。震災直後には、多くのウィルソンビル市民からお見舞いや激励のメッセージ、善意の見舞金をいただき、多くの市民が勇気づけられた。

⑥ 本宮市 × 英国



2015年2月、英国のウィリアム王子が復興支援として市内の「スマイルキッズパーク(現愛称:プリンス・ウィリアムズ・パーク)」を来訪され、記念植樹などの交流により子どもたちを勇気づけてくださった。「未来へつなげるもとみや英国訪問団」が英国を訪問し、様々な交流を行っている。

⑦ 飯舘村 × ラオス



震災前、ラオスのドンチャイ村の中学校建設費用を支援すべく、飯舘村では募金活動やふるさと納税を実施していた。そうした交流が「続く中で震災が発生。ドンチャイ村民が飯舘村のために折りをささげるとともに、寄付金や激励の手紙が送られた。

⑧ 南相馬市 × ジブチ、台湾、米国、韓国



ジブチからは、市長に対し、大統領及び国民からのお見舞いの言葉及び義援金をいただいた。台湾からは、台湾三重北區扶輪社等から給食用運搬車両1台の寄付をいただいたほか、台北市内で開催された「中学生野球交流大会」に中学生が招待を受けた。米国や韓国からも、義援金や励ましのメッセージ等の支援をいただいた。

⑨ 楢葉町 × アルゼンチン、ギリシャ



楢葉町・広野町に立地する「ヴィレージ」でFIFAワールドカップ日韓大会のアルゼンチン代表公認キャンプを受け入れた縁があった。震災後には同国赤十字社を通じて多額の義援金が寄せられ、日本赤十字社により避難した町民へ生活家電や支援物資が送られた。ギリシャからの義援金も、日本赤十字社を通じて町民の生活支援に充てられており、オリンピック聖火の採火地であるオリンピア市と交流を進める。

⑩ 広野町 × アルゼンチン、インドネシア



楢葉町・広野町に立地する「ヴィレージ」でFIFAワールドカップ日韓大会のアルゼンチン代表公認キャンプを受け入れた経緯があった。震災後には同国赤十字社を通じて多額の義援金が寄せられ、日本赤十字社により避難した町民へ生活家電や支援物資が送られた。インドネシアからも義援金等の支援を受け、バドミントン等を通じた交流を進める。

⑪ 白河市 × カタール



被災地復興支援プロジェクトの「カタールフレンド基金」より資金援助を受け、白河市総合運動公園国体記念体育館の外壁補修工事や陸上競技場のトラック改修、サッカー交流会開催等、地域のスポーツ振興と市民の健康増進に活用した。

